

増子 昇 先生を偲んで

—最期まで、現役教員に対する良き指導者であった偉大な先生—

東京大学 生産技術研究所 岡部 徹

東京大学名誉教授 増子 昇 先生は、去る 2019 年 9 月 23 日、心不全でご逝去されました。享年 84 歳でした。ご親族のお話では、日頃、お元気であった先生は突然、安らかなご臨終を迎えられたとのことです。ここに先生の生前のご業績とご活躍、貴重なご指導の数々を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

増子先生のご専門は、金属製錬学、電気化学、腐食防食、表面処理工学などで、後世に残る多くの業績を残されました。増子先生の輝かしい業績につきましては、すでにいくつかの追悼文^{(1)~(3)}に纏められております。せっかくの機会ですので、ここでは私の個人的な話題を、思い出話を中心に披露させていただきます。

増子先生は、長らく東京大学生産技術研究所(生研)の教授(1978~1995)であり、また、生研の所長(1986~1988)を務めておられました。現在、同所の現職教授である私にとって、増子先生は、雲の上の存在であり続けています。

私が東北大から東大の生研に赴任したのは、2001 年ですので、増子先生と親しくさせていただくようになったのは、先生がすでに東大をご退職された後のことになります。

増子先生と年齢差 30 歳と実に親子ほどの隔たりがありましたのにも関わらず、親しくさせていただく機会を得ることができたのは、専門分野が近かったためでしょう。

私の研究分野は、レアメタルの製錬やリサイクルです。増子先生が取り組まれた研究領域は実に

広く、私が専門とする非鉄製錬分野は、増子先生にとってはごく一部の領域です。しかし、東大には、非鉄製錬分野の研究者が少なかったために、幸運にも増子先生から直接、実に沢山のご指導を賜る機会がありました。

私は、東大のマテリアル工学専攻における「熱力学特論および演習」の大学院講義を担当していますが、その際には化学ポテンシャル図について増子先生が執筆した「電位-pH 図」のテキストを使って教えることがあります。

今も私の手元には、「増子先生ファイル」と題した、増子先生から頂戴したお手紙や文献を多数ファイリングした分厚いドッチファイルが宝物としてあります。図 1 は、そのファイルに保管している増子先生からいただいた直筆の手紙の一例です。このような直筆のお手紙や資料を何十回も頂戴しました。

増子先生は、間違った研究や不適切な研究アクションを見つけると、それが許せなかったのでしょうか、私に意見を求めてこられることが幾度もありました。中には、人に見せるのは憚られるような、かなり辛口のコメントが記された手紙もあります。常に真剣に研究に向き合う先生の姿勢は、私も見習わなければならないと、今も胸に刻んでおります。

増子先生は、元所長というお立場で、生研には亡くなる直前まで年に数回は、足を運ばれておられました。増子先生のご専門の一つである非鉄製錬の分野の若手教員が、新たに生研に赴任したこともあり、生研で様々な会合がある度に私の研究

室にもお立ち寄りいただきました。

私が主宰している「レアメタル研究会」への出席率が最も高かった方のお一人が、増子先生でした。会合では、いつも辛口のコメントや論評をしていただきましたが、先生のお蔭で、会合の雰囲気引き締まり、研究会の質が高まったのは有難い限りでした。

2006年にMasuko Symposiumという国際会議⁽⁴⁾の運営のお手伝いをさせていただいたときは、増子先生とさらに頻繁にお会いする機会を得ました。思い起こせば、国際会議の運営や段取りに関するお話よりも、はるかに長い時間、製錬や熱力学の議論や雑談を延々とさせていただいたことが、今となっては貴重な思い出です。

このMasuko Symposiumの大会委員長を務められた前田正史教授(現:京都科学技術大学学長)は、私を東北大から東大・生研にリクルートして下さった先生です。前田先生も増子先生から大いに薫陶を受けた、と追悼記に思い出を綴られていました⁽³⁾。

こうした意味では、私は大学人としては孫弟子にあたる存在ですが、2001年以降、毎年、10回以上は、増子先生とお会いする機会に恵まれ、実に長時間のお教えをいただきました。これは、望外の幸運であったと思っております。

増子先生には、様々な会合の後に、私たちを2次会にお誘いいただきました。その際、“元気の良い若い研究者”を新たに紹介するよう依頼されることが多くありました。(写真2参照) 当時は、「増子先生は、頻繁に若者の生き血を吸っているのです、いつもお元気で、頭脳明晰なのかもしれない」という冗談をご本人に対して申し上げたところ、「岡部さんらと一緒にいると、そりゃ若くなるよ。」と楽しそうにお答えくださいました。今とな

っては、そのような会話ができないのも残念です。

生前に増子先生が私たちに与えた数多くのご薫陶に対し、心より感謝申し上げます。

衷心より先生のご冥福をお祈りいたします。

参考文献

- (1) 小野 幸子, “追悼 増子昇先生を偲んで”, 電気化学, 87 巻, Winter 号, p. 364, (2019).
DOI: 10.5796/denkikagaku.19-OT0058
- (2) 柴田 正美, “名誉会員・元会長 増子 昇 先生を偲ぶ”, 表面技術, 70 巻, 11 号 (2019) 会告.
- (3) 前田 正史, 中村 崇, “増子昇先生の学問的業績と思い出”, 季刊 資源と素材, 第 5 巻, 1 号, pp.132–133, (2020).
- (4) A.C. Powell, “The Masuko Symposium of the 16th Annual Iketani Conference”, JOM 59, February, pp. 81–82, (2007).
DOI: 10.1007/s11837-007-0026-3

岡部敬様

05/22/24

増子 昇

拝啓

先日は大変お世話になりました。貴重資料
お送り頂いたので誠にありがとうございます。

とても美しいラズマスカートのお礼に、暑み危ど
お来年の夏本を伺いました。(筑地大学に
まわらばまわらば)

資料を拝見し、製鉄分野は増子さんのご自身
世界標準型の大規模プロフェッサーが誕生した
ことを嬉しく思います。矢野研先生のご
講演を拝見し、国際化と、灌漑やこの
日本の製鉄分野を支えて下さる。右金と増子
先頭研究秘伝の栄に名乗りを上げ、^{増子}張^{増子}の
これこそおかげで、^{増子}張^{増子}の^{増子}合^{増子}も大立
強いのを御同慶と存じます。

写真1

2005年に、増子先生から頂戴した直筆の手紙の
一例。このような手紙を最近まで、十数通いただ
いた。このほか、沢山の文献や資料をお送りいた
だいた。



写真2

2017年5月、本多記念賞の式典の後、増子先生
にご馳走になる。写真は、左から大阪大学産業科
学研究所 多根 正和 准教授、東北大学金属材料
研究所 市坪 哲 教授、増子先生、筆者(エスカイ
ヤクラブ日比谷にて)。「岡部さん、この会合の後、
誰か“活きの良い若い人”を誘って、どこかに飲
みに行こうぜ。」と幾度もお誘いいただいた。

出典:

‘増子 昇 先生を偲んで –最期まで、現役教員
に対する良き指導者であった偉大な先生–’

岡部 徹:

研友, vol.77 (2019~2020) pp.33-35.